

地球惑星科学委員会IUGG分科会IAVCEI小委員会  
(第25期・第3回)

議事要旨

1. 日 時 令和5年8月26日(土) 10:00~11:10

2. 会 場 遠隔会議 (ZOOM)

出席者：井口正人、市原美恵、上田英樹、篠原宏志、清水 洋、中川宏光、中田節也、西村太志、森田裕一、山岡耕春 (欠席：石塚 治)

オブザーバー：中道治久、藤田英輔

3. 議 題

- (1) 地球惑星科学委員会及びIUGG分科会報告
- (2) 最近のIAVCEIなど火山学研究を取り巻く国際的な動向
- (3) 国内における火山学研究を取り巻く動向
- (4) 第26期IAVCEI小委員会への申し送り事項
- (5) 第26期IAVCEI小委員会委員候補について
- (6) 第26期IAVCEI小委員会立ち上げ世話人の了承
- (7) その他 (国際会議などの今後の日程)

4. 配布資料

資料1 IUGG 分科会第25期第4回議事録

資料2 IAVCEI 小委員会(25-2)議事録+報告

資料3 IAVCEI/IUGG会議資料

資料4 IAVCEI News 2023/2 抜粋

資料5 Activity of Asian Consortium of Volcanology

資料6 活動火山対策特別置法の一部を改正する法律

4. 議 事

- (1) 地球惑星科学委員会及びIUGG分科会報告

中田委員長から、資料1に基づき、昨年のIAVCEI小委員会からの日本学術会議やIUGGに関する動向が紹介された。また、資料2に基づき、昨年の本小委員会で課題になっていたことを再確認した。

- (2) 最近のIAVCEIなど火山学研究を取り巻く国際的な動向

・中田委員長から、資料3、4に基づき、今年に入って開催されたIUGG、IAVCEI、AOGSの会議の状況が報告された。IAVCEI会員(全体で2500人)のうち日本が4番目の会員数である。コロナ禍による2年遅れでニュージーランド・ロトルアにおいてハイブリッド開催されたIAVCEI科学総会 (IAVCEI 2023) の参加者1100名のうち日本人参加者は9%で4番目であった。一方、IUGG 2023やAOGS 2023への日本の火山研究者の参加が極めて少ない印象であった。IAVCEIの2023年~2027年執行委員(Scientific council member)として下司信夫氏が選出された。

・藤田オブザーバーから、資料5に基づき、Asian Consortium of Volcanology(ACV)の研修会開催状況などについて報告があった。本年度はインドネシアのバリ島で研修会を開催する。参加機関間で研究連携のMOU調印を

進めている。

・市原委員から、日本とトンガ・バヌアツ・フィジー間で進めているSATREPSの進捗状況について説明があった。東大地震研と理学研究科が担当機関として計画が進められており、本年度は準備期間に当たり、相手協力機関との調整が進められている。

### （３） 国内における火山学研究を取り巻く動向

・清水委員から、先の国会で承認された「活火山法の一部改正」について、資料6に基づき説明があった。地震調査本部に倣って、火山調査委員会と政策本部の二つの柱で進められているが、まだ、大枠しか明らかにされていない。来月から調査委員会の準備会（意見交換会）が設置されることとなっており、基本施策の骨子が本年度中にまとめられる予定。現行の次世代火山研究・人材育成プロジェクトとの関係もここで議論されることになる。人材育成プログラムは火山本部の中に位置付けられる見通しで、継続的な火山災害研究関係の人材が確保されるようになるだろう。火山観測実証研究事業は来年度から火山本部内に位置付けられ、大学の火山研究も同様であろう。

・上に関して、火山研究の国際連携部分が火山本部で取り残しのないように注意が必要であるとのコメントがあった。

・西村委員からは、次世代火山研究コンソーシアムでこれまで実施してきた外国火山研修がフランスの大学のインターナショナルスクールに取り込まれてしまっており、日本のプレゼンスが見えなくなっている問題があるので、火山本部で日本の火山研究の国際対応をきちんと考える必要があることが指摘された。

・中道オブザーバーから、日本の火山噴火・災害に関する外国への発信法、ウェブナー活用の体制づくりはまだ提示できるまでには至っていないことが報告された。また、若手研究者を対象にした、国際会議でのセッション提案・コンピーナーに対する渡航経費支援の活用について国際委員会から再度確認を行うことにする。

### （４） 第26期IAVCEI小委員会への申し送り事項

今期から来期への申し送り事項として、日本の火山研究者のプレゼンスを様々な方法で高める必要がある。日本人の論文引用についての引き続き確認していく必要がある。また、来年度が発足する火山本部の中に、火山研究の国際対応をきちんと取り込み日本の火山研究のプレゼンスが上がる取り組みが行われるように働きかけをするべきである。

### （５） 第26期IAVCEI小委員会委員候補について

中田委員長が長期に渡って委員長を務めてきているので、次期は山岡委員が新たに選出された連携会員の中から委員長を選ぶのが好ましい。次期委員に若手研究者、女性研究者をさらに含めることが好ましく、何人かの候補者名が上がった。今後、中田委員長と山岡委員を中心に最終調整を行うこととした。

### （６） 第26期IAVCEI小委員会立ち上げ世話人の了承

中田委員長が、現IUGG分科会委員であり、次期も連携会員であることから、次期IAVCEI小委員会の立ち上げ世話人とする事とした。

### （７） その他

・藤田オブザーバーから、IAVCEIの次期執行委員である下司さんへの申し送り事項として、IAVCEIでEarly Career Scientistを日本から出すように求められていること、また、IAVCEI会長Bonadonna氏から、IAVCEIと日本火山学会が協定締結を希望しているとの紹介があった。後者に関しては、協定内容の確認が必要であるが、前向きに検討する。

・中川委員から、来年の韓国釜山でのIGC開催に絡んで、現地LOCと日本地質学会など日本の関係団体との間にあった問題について紹介があった。中田委員長がその経緯について補足した。

- ・中道オブザーバーから、AOGS 2028の開催地に福岡市を念頭に立候補予定であることに関して紹介があった。
- ・将来のIAVCEI関係の国際会議の日程について確認した。（資料3）